

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成27年 7月～ 9月実績

平成27年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成27年7～9月期実績及び10～12月期見通し
7. 調査時点 平成27年9月1日（火）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

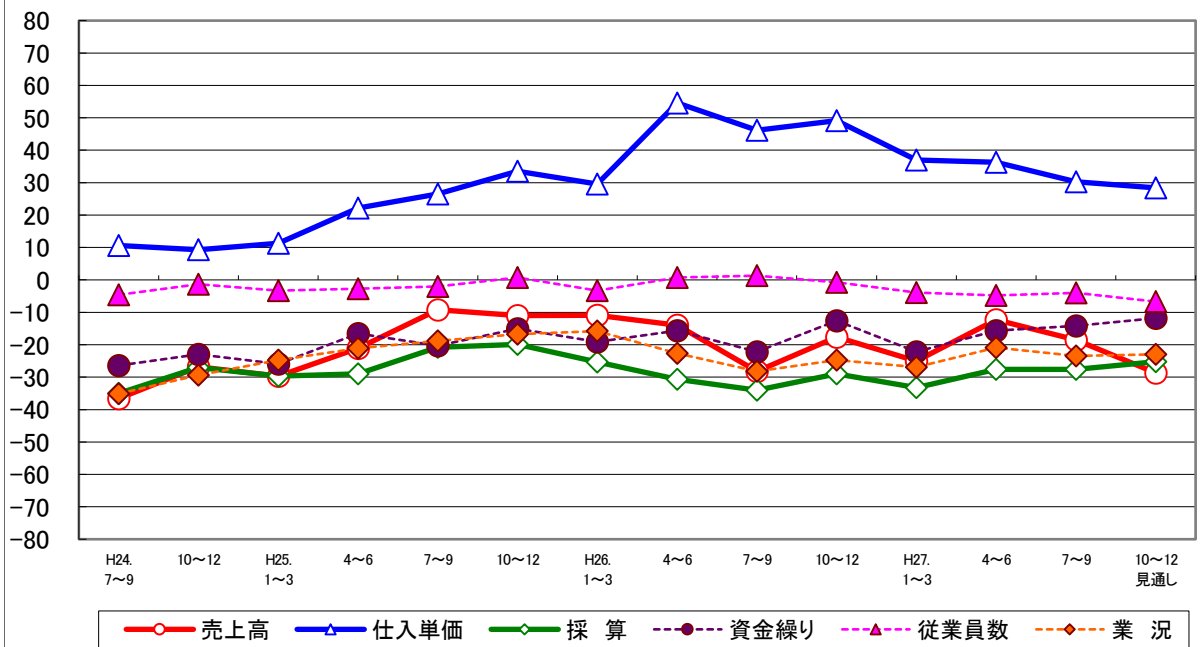
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

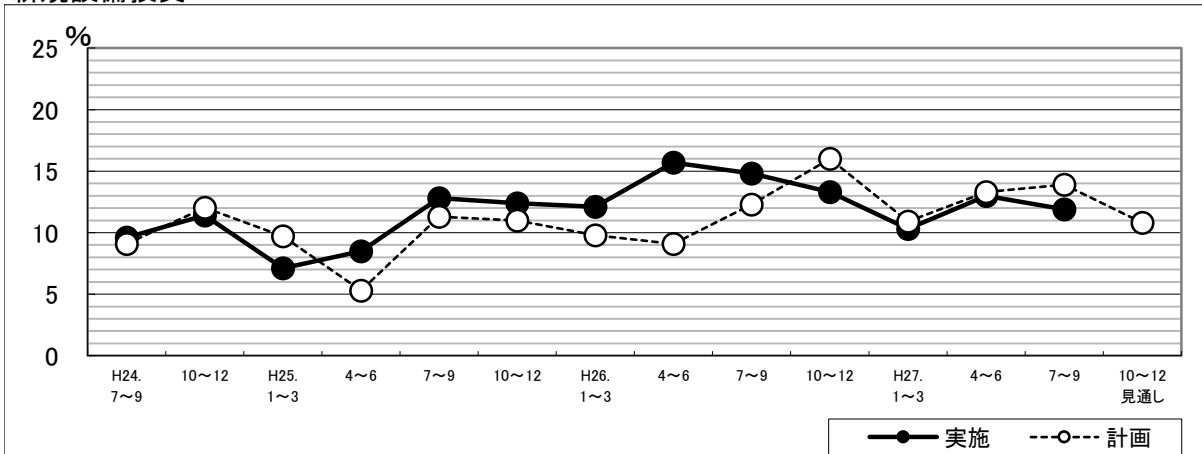
全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移（前年同期比：DI値）

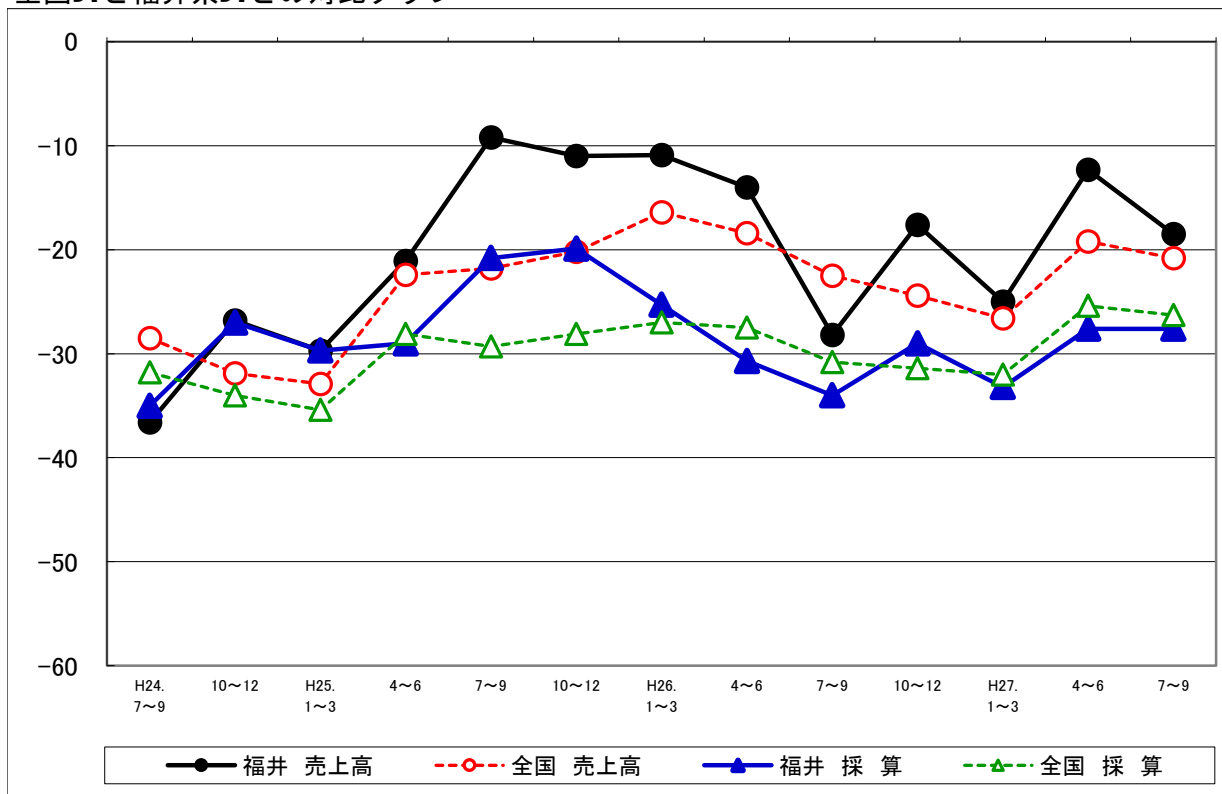
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10~12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1~3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4~6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7~9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10~12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12見通し	▲ 28.7	28.4	▲ 25.2	▲ 11.8	▲ 6.7	▲ 23.0



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成27年7～9月期の福井県経済を概観すると、海外景気の下振れなどが先行き不安につながっているものの、企業収益や雇用・所得環境の改善が続くなかで、地方創生を含む各種政策効果の影響も加わり、概ね回復基調を維持している。ちなみに、家計部門では、個人消費で主要観光地の来訪者増加に加え、大型小売店、コンビニエンスストア、ドラッグストア等も順調な客足に支えられ、回復基調で推移。企業部門も生産面で地場産業が横ばいで推移しているほか、電子部品・デバイス、化学等の主要産業は順調な操業を維持している。

しかし、今期（H27年7～9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち2項目（売上、業況）で悪化、1項目（採算）で横ばいとなっている。こうした結果から、県内中小企業の景況感は、傾向として売上高の減少による業況悪化という状況が見て取れ、全国並みの回復基調を確認するには、まだ問題が残っていることがうかがえる。ちなみに、項目別動向をみると、売上高が前期▲12.3→今期▲18.5へ、仕入単価（逆指数）が前期36.3→今期30.3へ、採算が前期▲27.6→今期▲27.6へ、資金繰りが前期▲15.7→今期▲14.2へ、従業員数が前期▲4.8→今期▲4.0、業況が前期▲20.9→今期▲23.5となっている。また、来期（H27年10～12月期）の見通しについても、売上高、従業員数などの面でやや足踏み感もみられ、概ね今期と同様の展開が予想される。

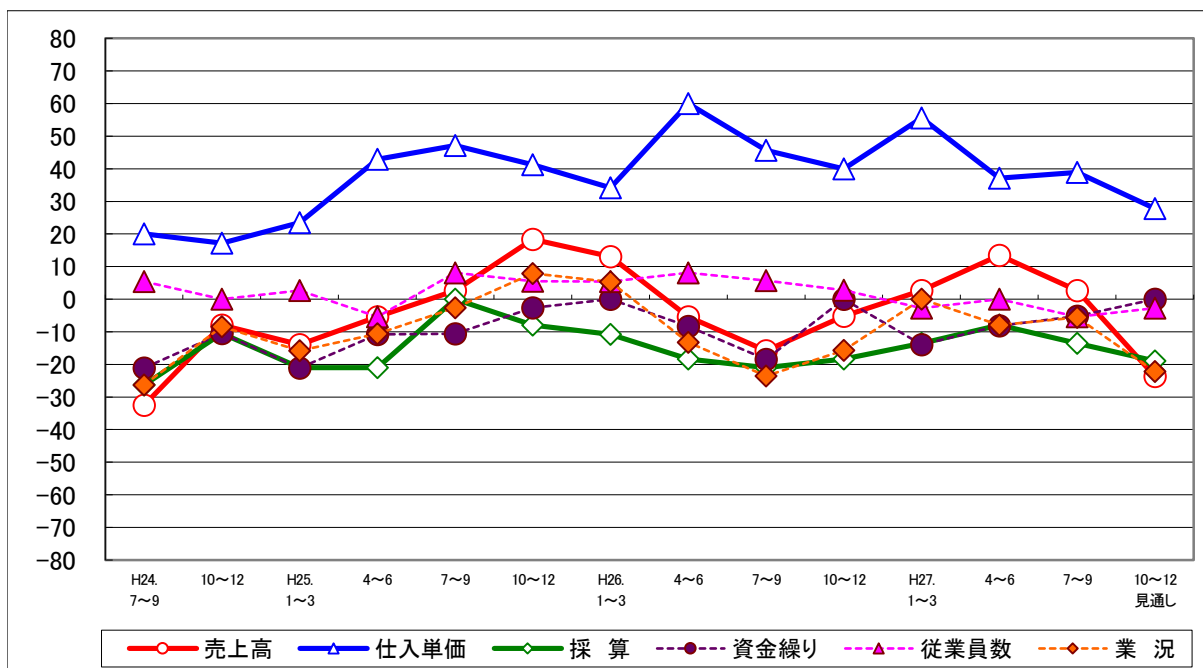
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高については全国（▲19.2→▲20.8）に比べ福井県（▲12.3→▲18.5）の低下幅が大きい。これとは逆に採算については、福井県（▲27.6→▲27.6）の横ばいに対し全国（▲25.4→▲26.3）は低下を示しており、項目により明暗を分ける結果となった。

その他、今期の新規設備投資については、計画の13.9%に対して実施が11.9%とやや低調であったほか、先行き（H27年10～12月期）についても、何らかの投資を計画している企業が10.8%となり、傾向としてはわずかながら低下している。

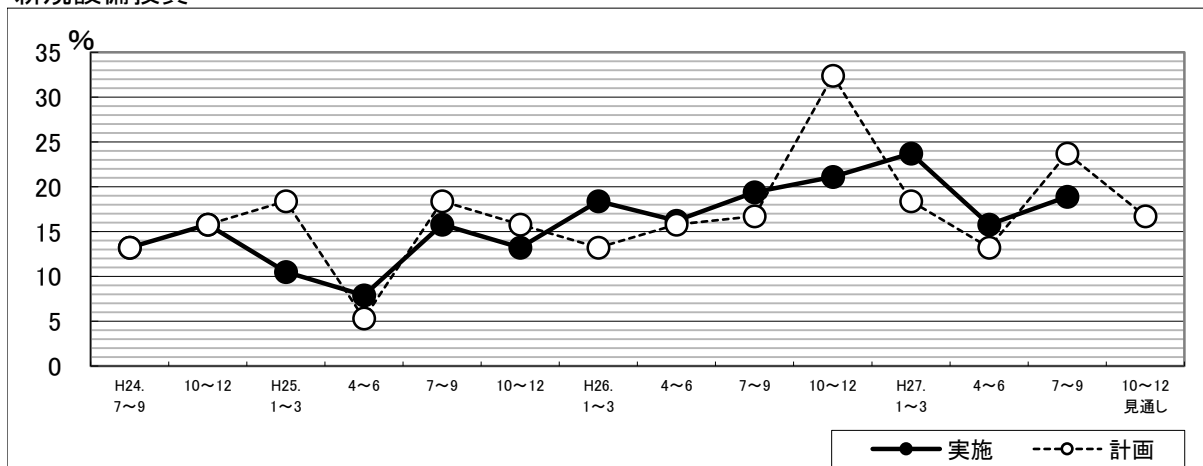
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

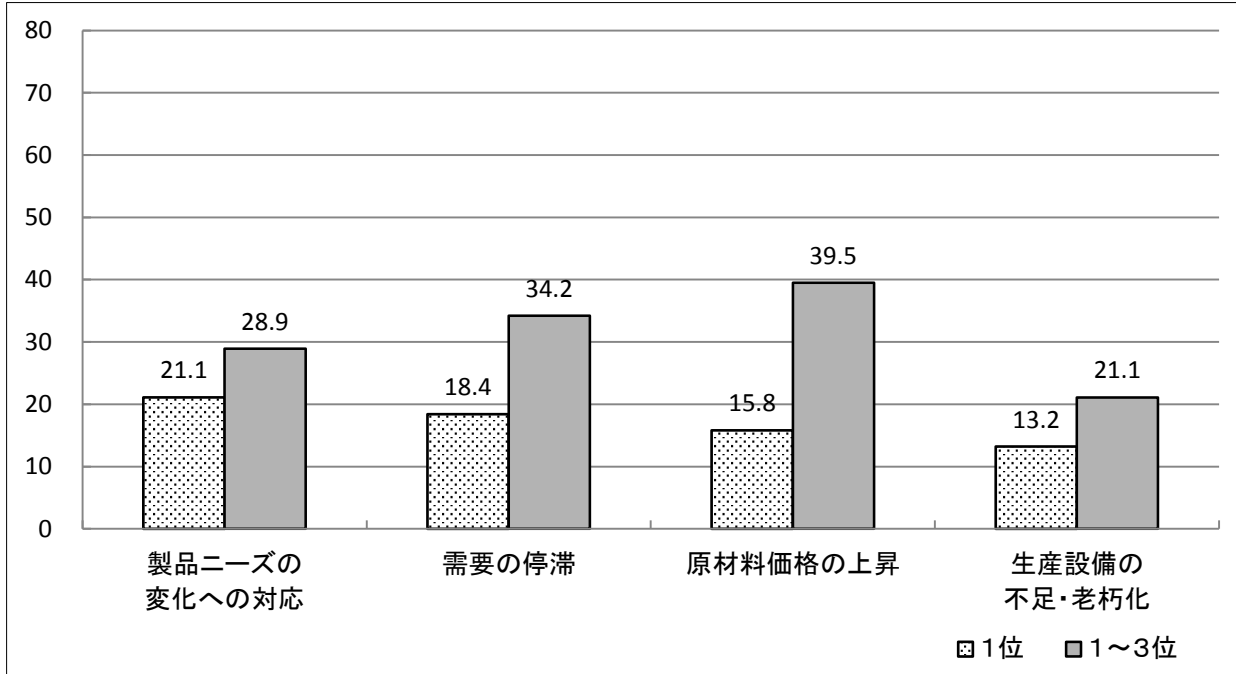
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10~12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1~3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4~6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7~9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10~12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12見通し	▲ 23.7	27.8	▲ 18.9	0.0	▲ 2.7	▲ 22.2



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・商品単価を値上げしたため、昨年より売上は伸びているが、併せて仕入単価、電気代も吊り上っており、利益増には結び付いていない。
- ・人件費の増化に対し、加工賃は上がらない。毎年の実施される最低賃金の切り上げは厳しい。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、まず地場産業では、繊維が海外向けに動きがみられるものの、国内向けは横ばいとなっていることから、全体では横ばいで推移。また、眼鏡枠もOEMで受注がみられるものの、国内需要の不振から全体では横ばいとなっている。しかし、電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に、化学は合成樹脂や医薬品中心に生産が増加しているほか、輸送機械は自動車変速機部品が高水準で推移。ただ、プラスチック製品は建築資材を中心に弱い動きとなっているほか、非鉄金属なども主力の缶材を中心に弱い動きとなっており、業種間、企業間での格差が続いている。ただ、総じてみれば主要産業の底堅い動きに押され、全体としてはいまだ回復基調を維持しているといえよう。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、業況が前期▲7.9→今期▲5.6へと改善、資金繰りも前期▲8.1→今期▲5.2へと改善した以外4項目で悪化する事態となった。ちなみに、項目別では、売上高が前期13.5→今期2.7、仕入単価（逆指数）が前期37.1→今期38.9、採算が前期▲7.9→今期▲13.5、従業員数が前期0.0→今期▲5.4へと悪化している。この結果から、県内製造業では、前期に比べ売上高の減少から採算状況が悪化しているものの、何とか資金繰りの改善努力によりこれまでの業況を維持している姿が読み取れる。また、先行き（H27年10-12月期）についても、売上高の減少から業況が大幅悪化する結果が出ており、先行きへの不安感はぬぐえない。

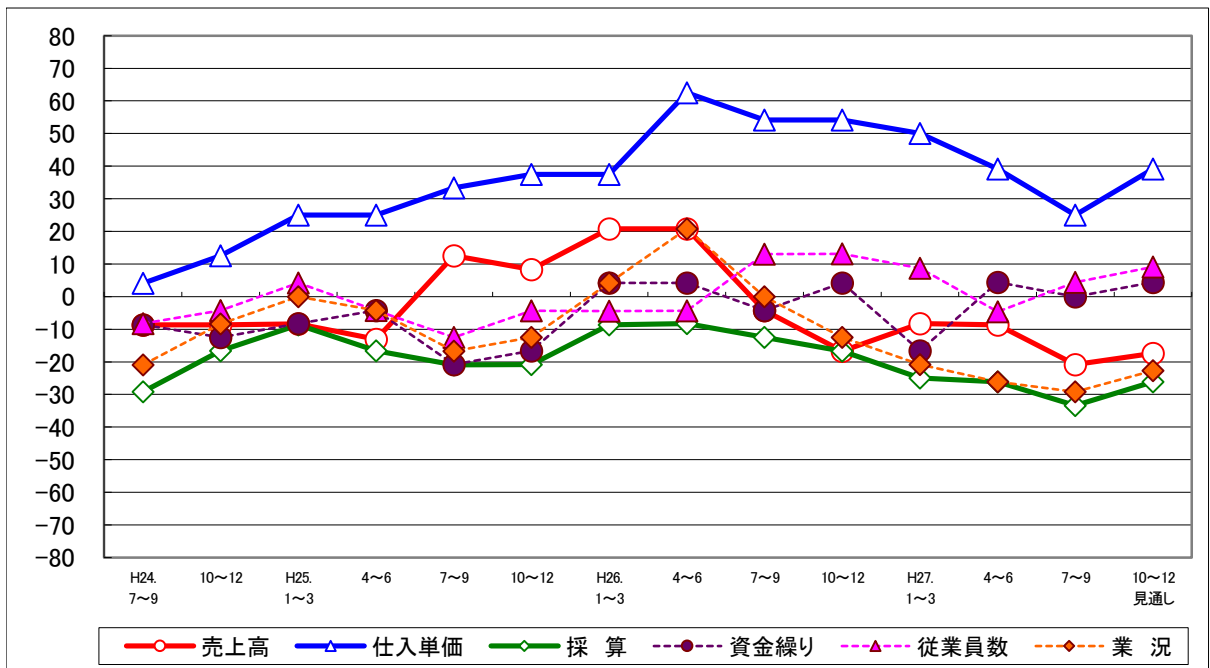
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の23.7%に対し実施が18.9%と、まずまずの実施状況を維持。先行きについても、何らかの投資を予定する企業が16.7%を占め、投資意欲は底堅い。

最後に、経営上の問題点については、「製品ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業21.1%、1位～3位までに挙げた企業28.9%）や「需要の停滞」（1位に挙げた企業18.4%、1位～3位までに挙げた企業34.2%）、それに「原材料価格の上昇」（1位に挙げた企業15.8%、1位～3位までに挙げた企業39.5%）への指摘が比較的多くなっており、県内製造業では多様な経営課題が浮上している事実がわかる。

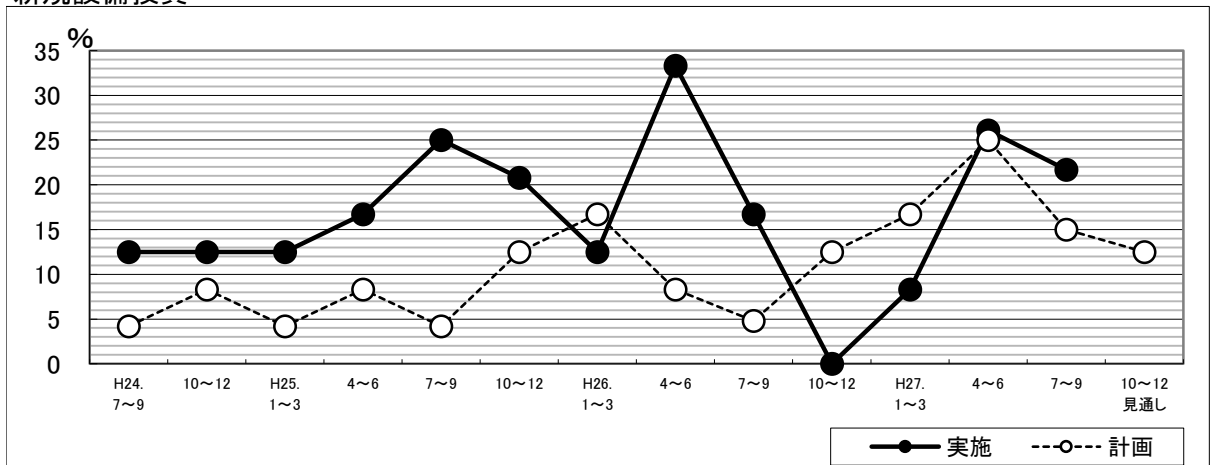
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

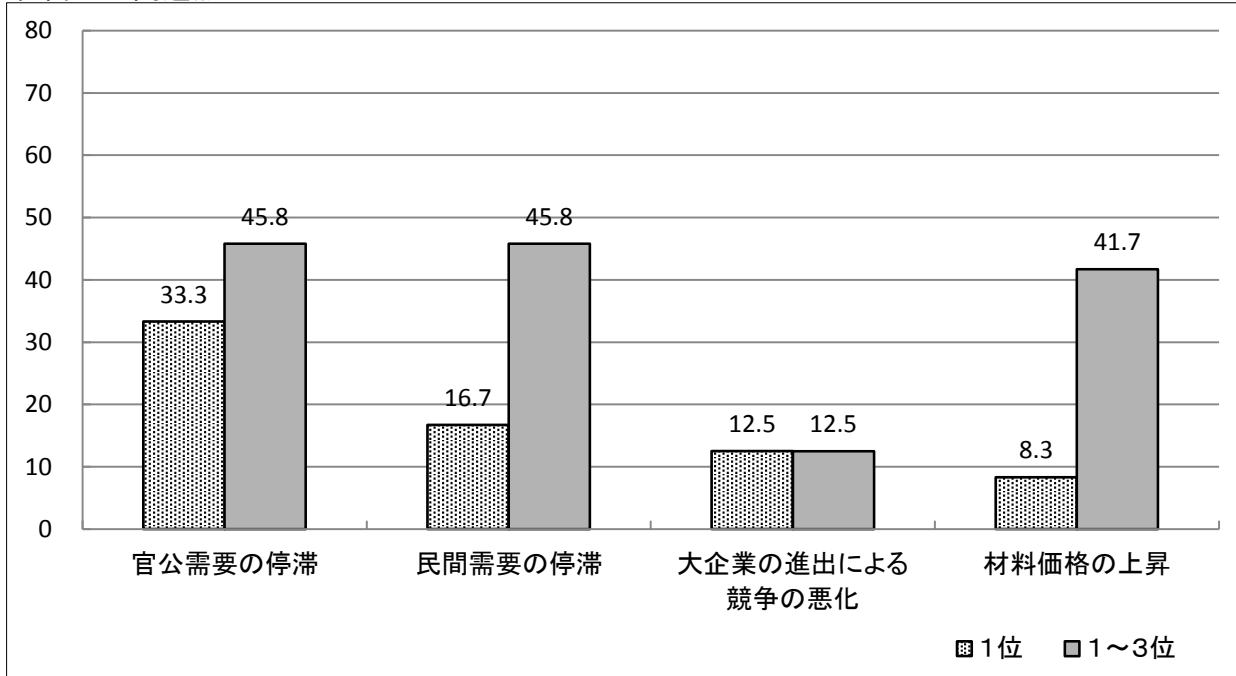
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1~3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4~6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7~9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10~12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12見通し	▲ 17.4	39.1	▲ 26.1	4.4	9.1	▲ 22.7



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・材料費の値上げが続いており、厳しい時期が続いている。
- ・消費税率が10%へ引き上がる時は、仕事の取り合いが予想される。

建設業の景況

福井県内における平成27年度（27年4月～27年9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で719億17百万円の前年同期比5.8%減、発注件数は同1,952件の同15.2%減となり、発注額、件数ともに前年度同期を下回っている。これを主な発注者別でみると、国家関連工事（123億55百万円の同20.2%増）や市町村関連工事（290億34百万円の同19.4%増）で増加したものの、県関連工事（210億44百万円の前年同期比9.9%減）が大幅減少しているほか、独立行政法人等（63億34百万円の同19.4%減）での減少がたたり、全体を引き下げていることがわかる。また、住宅投資については、平成27年4月～8月までの5か月累計で、前年同期比12.5%増の1,813戸となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比4.3%増の1,028戸、貸家が同29.6%増の596戸となっている。

こうした中で今回の景況調査では、仕入単価（逆指数）が前期39.1→今期25.0、従業員数が前期▲4.6→今期4.4で改善がみられたものの、売上高が前期▲8.7→今期▲20.8、採算が前期▲26.1→今期▲33.4、資金繰りが前期4.4→今期0.0、業況が前期▲26.1→今期▲29.2へと悪化傾向を示した。また、先行き（H27年10～12月期）については、仕入単価で悪化予測となっている以外、残りの5項目では改善が予想されており、全体としてやや期待感もうかがえる。

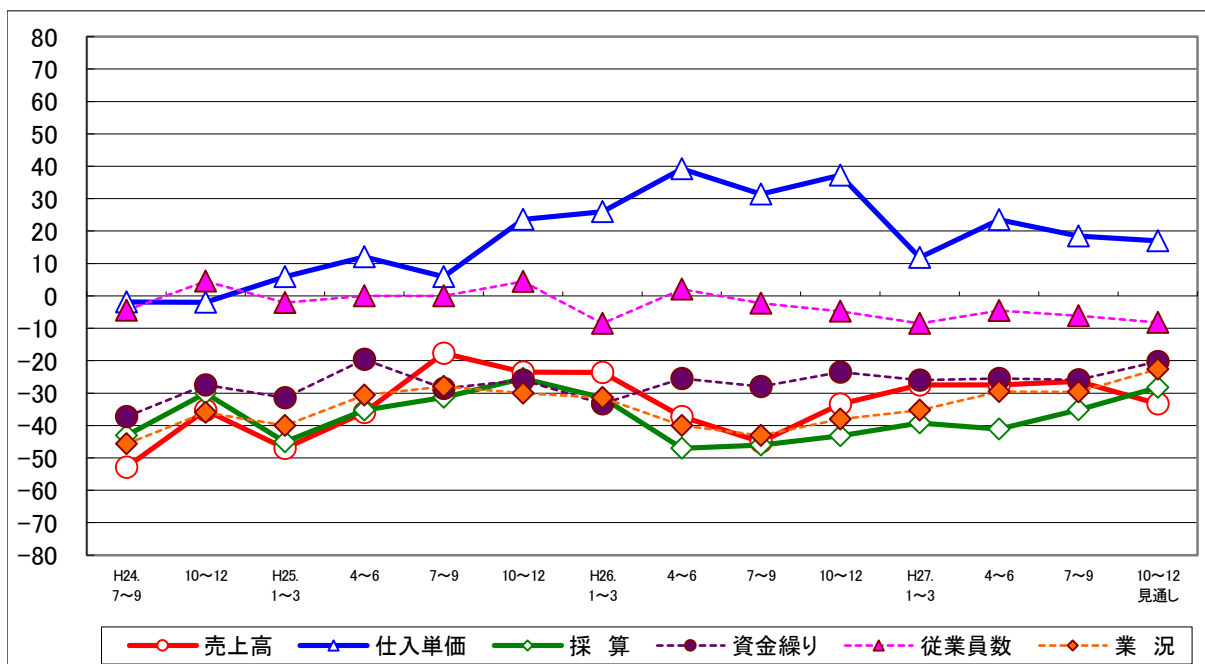
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画した企業15.0%に対し実施した企業が21.7%と順調に推移した。ただ、先行き（H27年10～12月期）については何らかの設備投資を計画している企業が12.5%とやや低下するが、まずまずの投資意欲が続くとみるべきであろう。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト33.3%、1位～3位までに挙げた企業45.8%）、「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト16.7%、1位～3位までに挙げた企業45.8%）を指摘する企業が比較的多く、そのほか、材料費のアップ、消費税問題を指摘する企業もみられた。

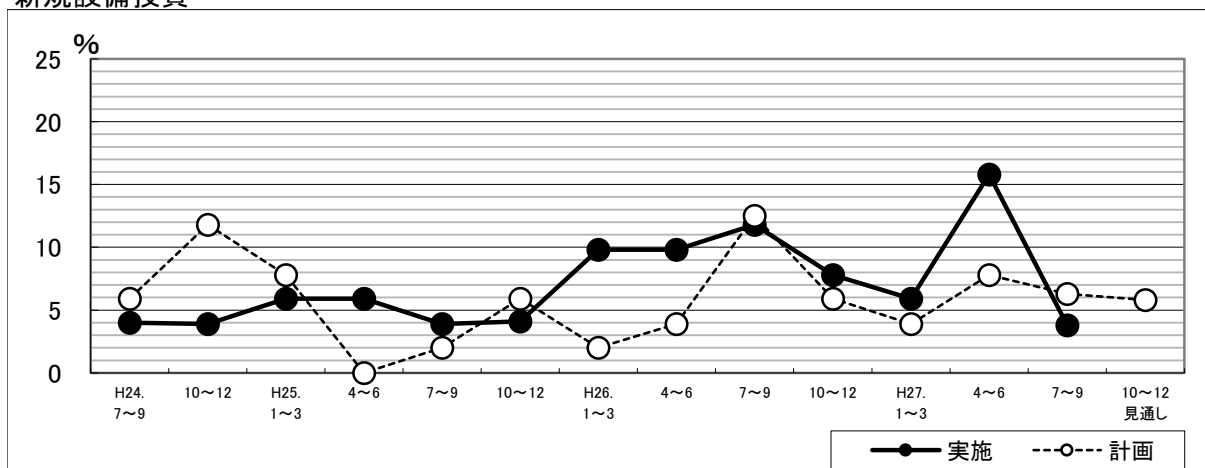
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

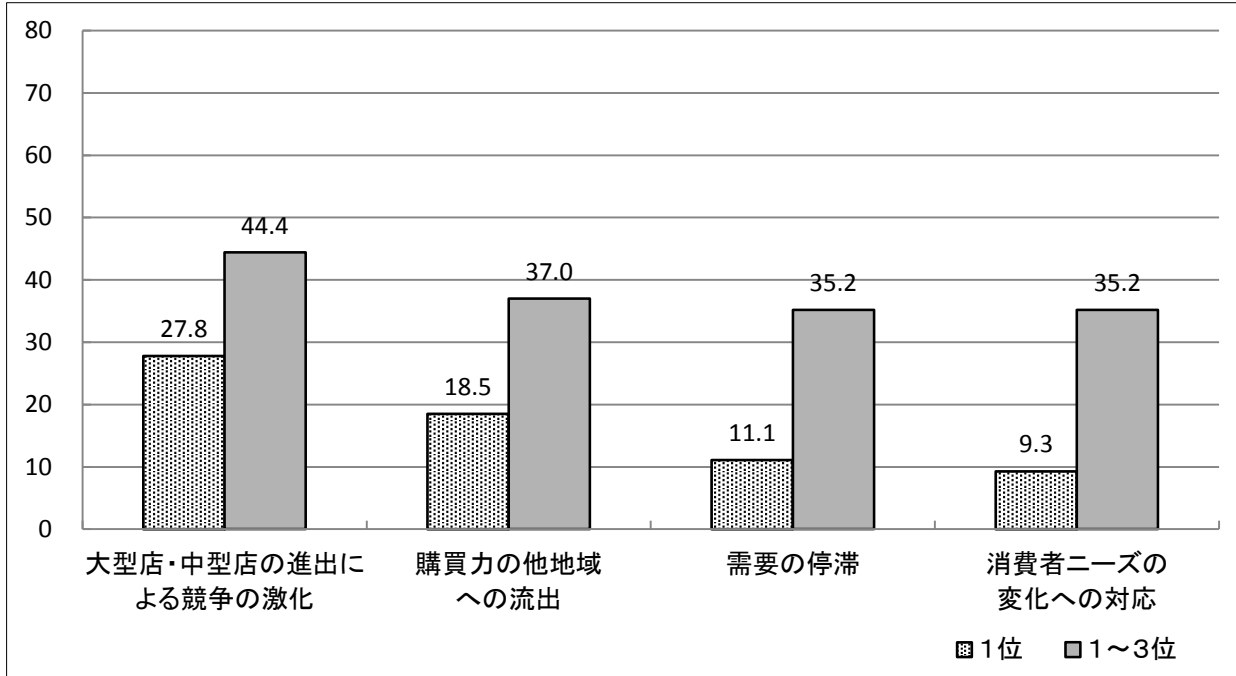
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1~3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4~6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7~9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10~12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12見通し	▲ 33.3	17.0	▲ 28.3	▲ 20.3	▲ 8.2	▲ 22.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・店舗・機器の老朽化が進んでいるが、需要が停滞しているため、設備投資を実施できない。
- ・今年の夏は好天に恵まれ、昨年と比べ客数も増加し夏物商品の売り上げが伸びた。

小売業の景況

近畿経済産業局が毎月公表する大型小売店販売状況（百貨店＋スーパー）から8月の結果をみると、飲食料品の動きが良く高額品等も好調に推移したことなどから、全店ベースで前年同月比2.9%増の63億円となり、今年入り後は3月（消費税増税前の駆け込み需要が発生した月との比較による）を除き概ね前年同月の実績を上回っている。業態別では、大型小売店で高額品に動きがみられることなどから緩やかな回復基調にあるほか、コンビニエンスストア販売が、ファーストフード等に動きがみられ順調に推移、ドラッグストアも品揃えの拡充により飲食料品や日用品に動きがみられたことなどから順調な動きとなっている。ただ、家電量販店やホームセンターなどでは、いまだ足踏み感が見られる。

こうした中、今回の景況調査では、6項目中3項目が改善、残り3項目で悪化傾向を示すなど、明暗二分する結果となった。ちなみに、売上高が前期▲27.5→今期▲26.4、仕入単価（逆指数）が前期23.5→今期18.5、採算が前期▲41.1→今期▲35.2で改善。資金繰りが前期▲25.5→今期▲25.9でほぼ横ばい。従業員数が前期▲4.6→今期▲6.1、業況が前期▲29.5→今期▲29.6とやや悪化している。また、先行き（H27年10-12月期）については、売上高、従業員数を除き4項目で改善を示しているが、回復基調とはいえ水面下にあることに変わりはない。

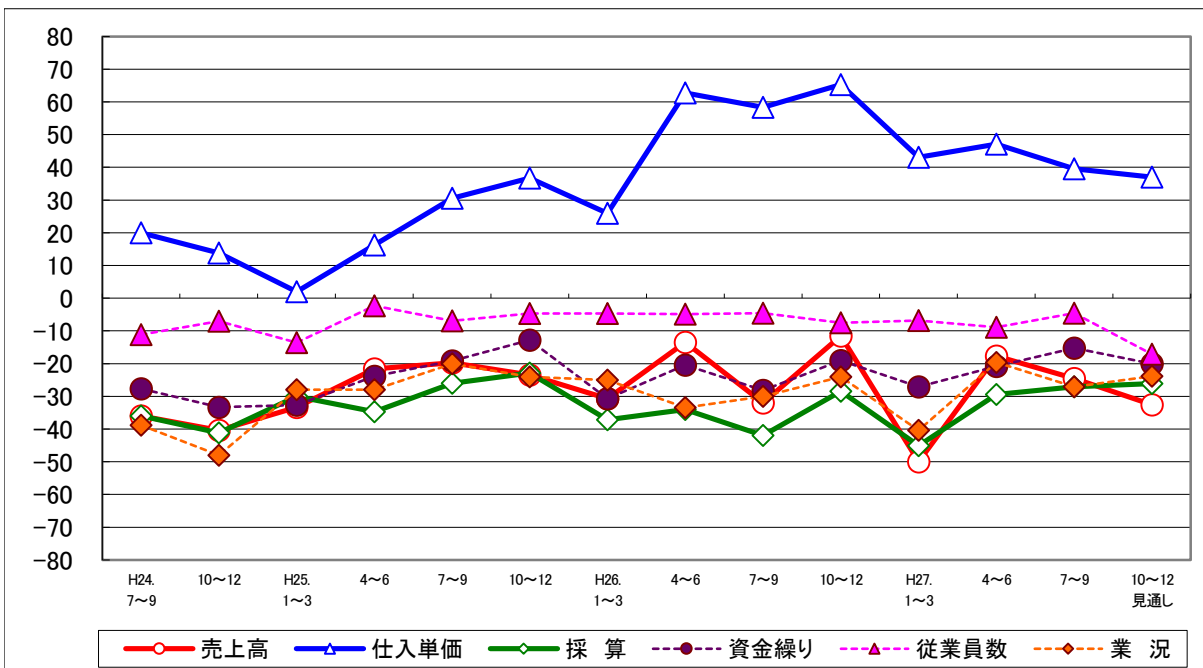
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の6.3%に対し実施が3.8%となり低調な結果となった。また、先行き（H27年10-12月期）についても、5.8%の計画にとどまっており、同業界における投資意欲の回復感はない。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争激化」（1位に挙げた企業ウエイト27.8%、1位～3位までに挙げた企業44.4%）や「購買力の他地域への流出」（1位に挙げた企業ウエイト18.5%、1位～3位までに挙げた企業37.0%）を指摘する企業が多い。そのほか、「需要の停滞」、「消費者ニーズの変化への対応」の指摘も比較的多く、中には「需要が停滞し店舗改修など設備投資ができない」といった厳しい声も聞かれた。

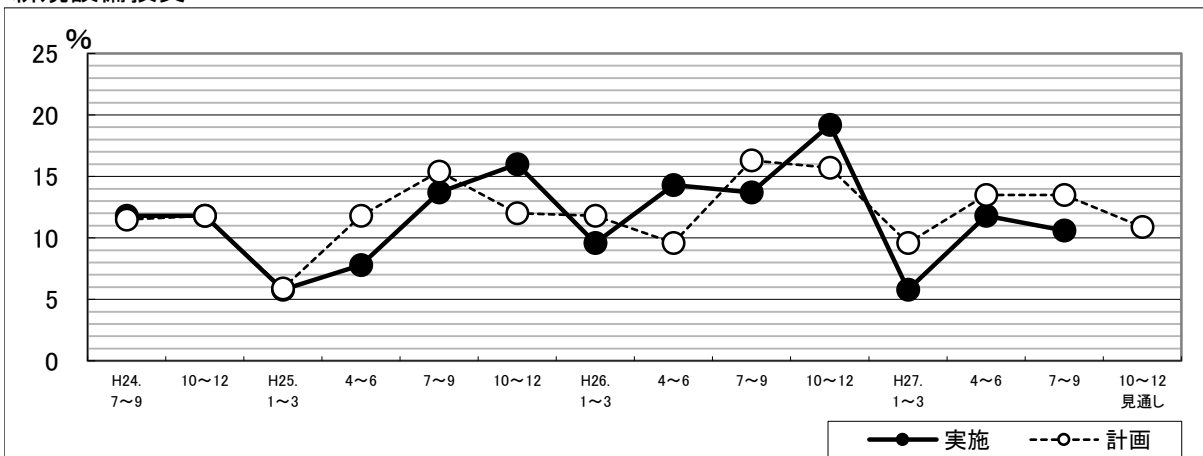
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前年同期比：DI値）

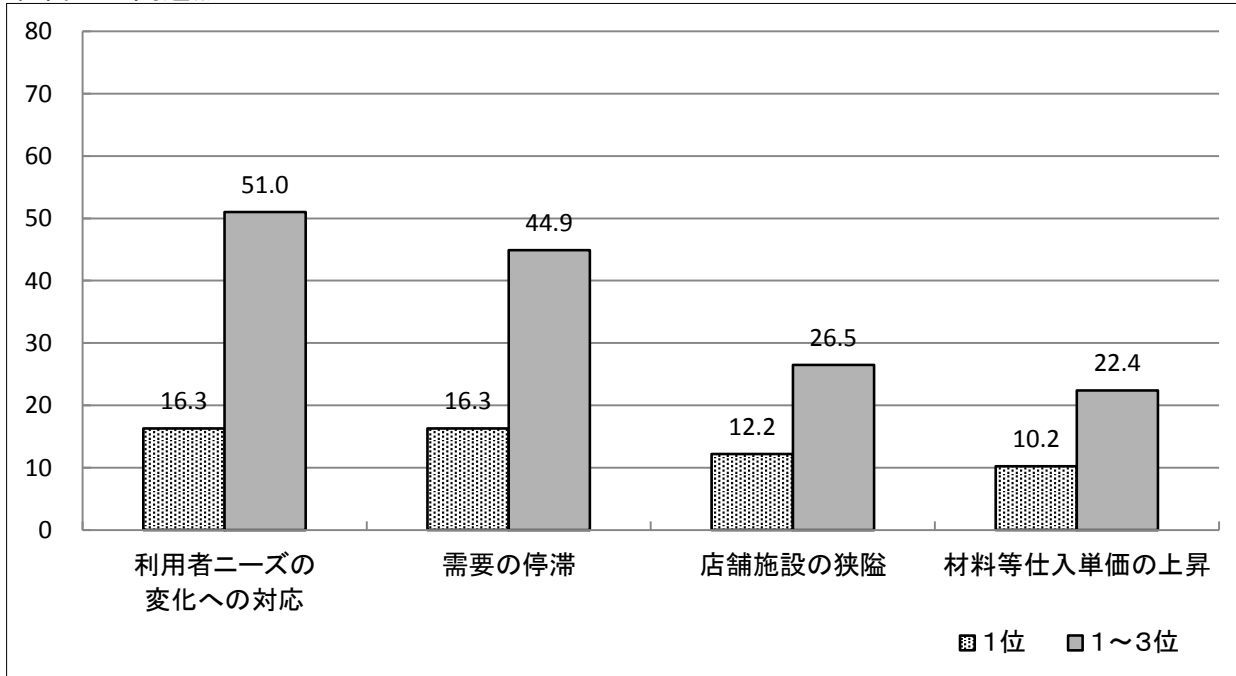
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10～12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1～3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4～6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7～9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10～12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1～3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4～6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7～9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10～12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1～3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4～6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7～9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10～12見通し	▲ 32.6	37.0	▲ 26.1	▲ 20.0	▲ 17.1	▲ 23.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・特に変化も無く好況になる気配もない。サービス業は、当分は好況感を感じないだろう。
- ・株高やプレミアム商品券の発行によって一時的に消費が増加したが、継続性は無いと思う。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する平成27年8月の第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）は、103.3で前月比0.1%の上昇となった。しかし、伸びは微小で総じてみれば横ばい状況といえる。これを業種別にみると、金融業・保険業、事業者向け関連サービス、医療・福祉、卸売業で上昇。生活娯楽関連サービス、情報通信業、電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業、小売業、運輸業・郵便業、物品賃貸業（自動車賃貸業を含む）で低下している。





























































ちなみに、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、売上高、業況の2項目を除く4項目で改善傾向を示した。項目別では、売上高が前期▲17.7→今期▲24.5、仕入単価（逆指数）が前期47.1→今期39.6、採算が前期▲29.4→今期▲27.1、資金繰りが前期▲20.8→今期▲15.2、従業員数が前期▲8.9→今期▲4.6、業況が前期▲19.6→今期▲27.1となっている。今回の結果からは、これまでと異なり恒常的な問題である仕入れ単価の上昇、人手不足感に改善傾向が出ているものの、今度はそれに見合う売上高の改善、それに伴う業況改善が進んでいない実態が浮かび上がる。また、先行き（H27年10－12月期）については、売上高、資金繰り、従業員数で悪化予測となっているものの、残り3項目は改善予測が立てられており、一進一退の状況が続くものと思われる。

一方、新規設備投資については、計画13.5%に対し実施が10.6%とまずまずの動きとなったほか、先行き（H27年10－12月期）についても10.9%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど、今後も横ばいで推移することが期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「利用者ニーズの変化への対応」及び「需要の停滞」への指摘が、1位に指摘した企業ウエイト16.3%と同数になったほか、「店舗施設の狭隘」や「材料等仕入れ単価の上昇」を指摘する企業も比較的多い。

全国・福井景気動向 平成27年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 20.8	36.2	▲ 26.3	▲ 16.5	▲ 4.1	▲ 22.3
	製造業						
	DI値	▲ 11.8	40.5	▲ 19.5	▲ 13.5	▲ 1.5	▲ 17.4
	建設業						
	DI値	▲ 18.6	46.5	▲ 24.0	▲ 10.7	▲ 4.7	▲ 16.1
	小売業						
	DI値	▲ 31.0	26.2	▲ 33.8	▲ 23.1	▲ 5.4	▲ 32.4
	サービス業						
DI値	▲ 19.9	37.1	▲ 25.2	▲ 15.6	▲ 4.6	▲ 20.0	
福井	全体						
	DI値	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
	製造業						
	DI値	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
	建設業						
	DI値	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
	小売業						
	DI値	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
	サービス業						
DI値	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。